

平成 29 年度アドバイザー派遣事業 実施レポート

- 1 研究団体名 江府小・日野郡小教研国語部研修会
- 2 日 時 平成 29 年 10 月 30 日 (月) 9 : 30 ~ 16 : 30
- 3 会 場 江府町立江府小学校 (日野郡江府町小江尾 6 2)
- 4 アドバイザー 白水 始 氏 (東京大学高大連携接続研究開発センター)
- 5 参加人数 19 名
- 6 研修テーマ かかわり合い、豊かに学び、力を伸ばす児童の育成
~伝え合い、聴き合い、新たな知を創造する授業をめざして~

7 ねらい

研修テーマに迫る授業をめざすため、授業を通じた児童の様相の見取り方と思考の深まる児童相互のかかわり方について研修し、授業改善に生かす。

8 研修の概要

(1) 公開授業①② (江府小全学級公開) 及び指導助言

全学級が公開し、白水始先生に指導助言を受けた。江府小では、これまでの算数科で得られた研究の成果を他教科に広げていくことを主眼に公開したので、他教科における「思考の深まるかかわり」はどうあるべきかを見ていただいた。白水先生には 3 年間継続して指導を受けているので、児童の実態を踏まえた助言をいただいた。



- 全体的に落ち着いて学習に向かっている。指導者と児童の関係が健やかである。
- 価値ある「かかわり」には、タイミングとツールが重要。どのようなタイミングで小グループを組み、どのようなツールを活用させるかを考えるとよい。
- 音楽科での楽器や体育での作戦ボードなどはかかわり (話し合い) のツールになる。自分の思いをしっかりと書ける児童が多いので、書いたものをツールにする方法もある。
- 少人数でも小グループを構成することは可能。ペアなどのかかわりも入れていくと良い。語りやすい小グループで話し合うことが「練り上げ」につながっていくのではないかな。

(2) 公開授業③④及び授業研究会 (研究協議及び指導助言)

5 年生の国語の授業を公開し、その後授業研究会を行った。今回は、「思考の深まるかかわり」を主眼におき、授業者の事前の想定とのずれやその要因、他者とのかかわりなどをポイントに参観し、研究協議を行った。

<公開授業>

単元名 和の文化について調べよう (東京書籍)
教材名 「和の文化を受け継ぐ 一和菓子をさぐる」

<授業者>

黒見真由美教諭

- ◆公開授業③ : ジグソー法による授業の第 1 時 (主にエキスパート活動)



[学習活動]

- 1) 課題（和菓子が「長く受けつがれている」とはどういうことだろう）を確認する。
- 2) 学習前に、課題に対する自分の考えを書く。
- 3) 学習課題につながる3つの視点（和菓子の歴史、和菓子と他の文化、和菓子を受けついできた人）について、各グループで考える（エキスパート活動）。
 - A: 和菓子の歴史に「変わっているもの」と「変わらずに続いているもの」があることを理解する課題。
 - B: 和菓子と他の文化のかかわりで「変わっているもの」と「変わらずにつづいているもの」があることを理解する課題。
 - C: 和菓子を受けついできた人が「変えて伝えようとしているもの」と「変えずに伝えているもの」があることを理解する課題。

◆公開授業④：ジグソー法による授業の第2時（主にジグソー活動、クロストーク）

[学習活動]

- 1) ABC担当が集まるグループに再編成し、意見をまとめる。（ジグソー活動）
- 2) 各グループで出た意見を発表し合い全体で意見を交流する（クロストーク）
- 3) 課題に対する自分の考えを書く。
- 4) 本時の学習を振り返り、次時の学習について知る。

◆授業研究会

授業研究会では、①児童の姿からどのような理解の深まりが見られたか（見られなかったか）、②かかわりを深めるためにどのような手立てが有効だったか（必要だったか）、③明日の授業に生かせることについてグループ協議を行った。

【研究協議で出された「明日の授業に生かしたいこと」】

- 書いたことをそのまま伝えるのではなく、キーワードを書き残し話し言葉で伝える方が相手に伝わりやすいのではないか。
- 板書をまとめるだけでなく、自分の考えをまとめる力をつけていきたい。
- 国語では、書いてあることの外にある言葉をアウトプットさせることが必要。
- 算数のように考え方が収束するのではなく、多様な考えが認められるオープンな状態でどうかかわらせるのが次の課題になると感じた。
- 算数からのステップアップとして、情報の収集・統合・再構築というスキルを身につけさせることが必要だと感じた。

◆指導助言

◇授業について

読んだはずのことと今日の読みの推定にズレがあった。解決策として1段落目を全体で読み返してメインの課題を理解させたり、「変わらない」「変わる」「変わる・変わらない」という三択を明示的に考えさせても良かった。

◇深い学びを作る研修方法

ステップ0：授業体験（授業者の意図は問わない）

ステップ1：学びの過程シミュレーションと授業者の意図理解

- ・上位児童、不得意児童の予想解答
- ・ジグソー活動に持って行けるエキスパート活動の情報
- ・授業後の上位児童、不得意児童の想定解の具体例

ステップ2：シミュレーションに基づく改善案検討

- ・本時のゴールポイント
- ・授業の最初の段階で活用できてほしい知識、授業前に知っていると深まりがなさそうな知識の洗い出し。
- ・授業デザインの改善すべき点及び改善方針

「深い学び」とは、授業者がねらうゴールとスタートの違いの深さである。